

# Twinkle No.15 2018.04.01

川崎こどもクリニック附属病児保育室リトルスター <http://www.kawasaki-kc.jp/littlestar.html>

〒597-0102 貝塚市木積 607-10 TEL/FAX 072-446-0415 little-star@kawasaki-kc.jp

## くすりの話⑨ 抗アレルギー薬

アレルギーの発生機序にはヒスタミンが大きく関わっています。したがって、前号で取り上げた抗ヒスタミン薬は抗アレルギー剤とも言えます。特に第2世代非鎮静性抗ヒスタミン薬（アレグラ®、クラリチン®、ザイザル®など）は、現在のアレルギー性鼻炎や蕁麻疹の治療の主役です。



その他の抗アレルギー薬を見ていきます。アレルギー疾患として、重要なものに気管支喘息があります。気管支喘息は体内のアレルギー反応によって気管支などに炎症が生じ、気道が狭くなることで咳などの症状があらわれたものです。気管支に炎症を引き起こし、気管支を収縮させる仕組みに深くかかわっているロイコトリエンという化学伝達物質の作用を阻害

する薬がロイコトリエン受容体拮抗薬です。プラソルカスト（オノン®）、モンテルカスト（キプレス®、シングレア®）などがそれです。その作用により、気管支喘息の症状が生じるのを防ぎます。出ている症状を抑えるというよりは、予防するという作用があります。実際の医療の現場で使えるようになってから20年余りになりますが、それまでなかなかコントロールできなかった喘息の発作をかなり良好にコントロールできるようになり、入退院を繰り返していた患者さんの入院回数が激減したという画期的な薬です。

気管支喘息の症状の強い場合、あるいはしっかりとした予防が必要な場合には、吸入や内服・点滴でのステロイド薬の使用が行われることもあります。ステロイド薬については、まだ別にお話しすることにしたと思います。

入所時や進級時には園児の予防接種歴の確認（健康記録票への記載など）がされているかと思いますが、それを元に未接種分のワクチンを拾い出して接種勧奨していくということは、大きな園内感染対策となります。まだ任意接種であるものの接種率が上がって来ているおたふくかぜ、定期接種対象となった水ぼうそうあたりが保育園で流行するという事は、「平時」の感染対策が十分でないということです。流行が始まってバタバタするのではなく、流行していない「平時」からの対策が肝要です。

## 園内感染対策の第一歩

感染対策の第一歩と聞いて何が浮かんだでしょう。マスクの使用でしょうか。手洗いでしょうか。それらも大事ですが、感染症があまり無い時期にこそ進める感染対策があります。それが予防接種歴の確認および接種勧奨です。

園児から園児にうつる（そこに保育者も絡むこともあります）可能性のある病気として麻疹、風疹、水ぼうそう、おたふくかぜ、百日咳、B型肝炎、インフルエンザなどがあります。そのような病気に対してはワクチンが用意されており、予防接種により予防ができます。予防効果の程度はそれぞれのワクチンによっても異なりますし、接種回数、接種後の時間経過によっても変わります。また、予防接種は規定の回数を接種してこそ期待される効果が発揮されます。

入所時や進級時には園児の予防接種歴の確認（健康記録票への記載など）がされているかと思いますが、それを元に未接種分のワクチンを拾い出して接種勧奨していくということは、大きな園内感染対策となります。まだ任意接種であるものの接種率が上がって来ているおたふくかぜ、定期接種対象となった水ぼうそうあたりが保育園で流行するという事は、「平時」の感染対策が十分でないということです。流行が始まってバタバタするのではなく、流行していない「平時」からの対策が肝要です。

